

水稲品種のタイヌビエ抑草力は空間占有体積によって評価できる

研究のねらい

除草剤の使用量を減らすためには、雑草に強い水稲品種を育成して利用することが有効な手段となる。水稲品種の抑草力の評価手法を開発するために、草型の異なる水稲品種と最強害雑草であるタイヌビエとの混植栽培を行い、水稲形質とタイヌビエ生育量との関係を解析した。

研究の成果

水稲品種のタイヌビエ抑草力を評価する指標として、移植約40日後の水稲株の草冠短径と草冠長径及び草高から算出する空間占有体積を考案した(図1)。

成熟期のタイヌビエ生育量との相関が最も安定して高い水稲形質は空間占有体積であり、多数の品種を用いて試験した場合にも水稲株の空間占有体積と成熟期のタイヌビエ乾物重との間には負の相関が認められることから、ほとんどの水稲品種のタイヌビエ抑草力は空間占有体積によって評価できる(図2)。

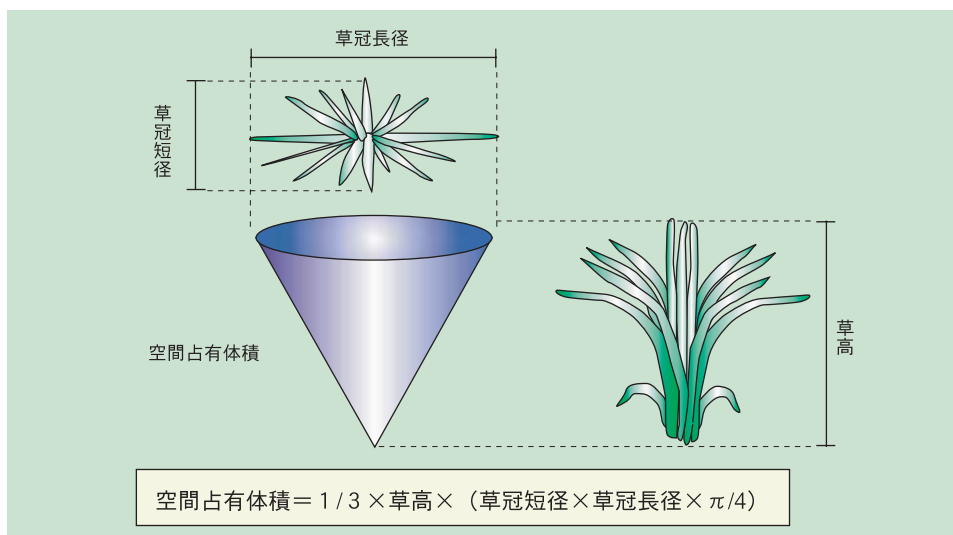


図1 空間占有体積の算出方法

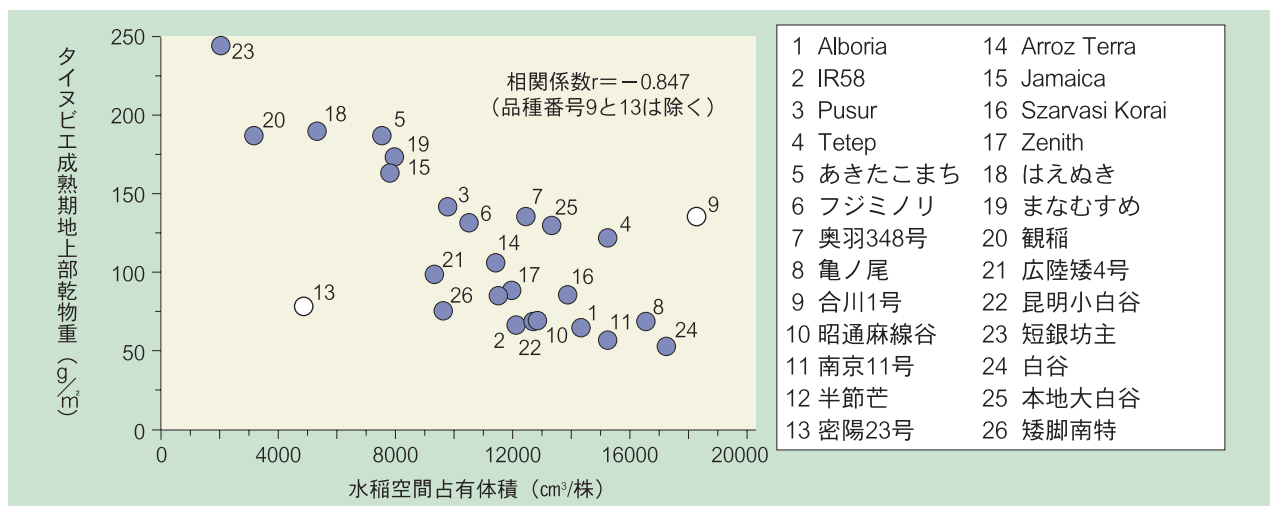


図2 水稲空間占有体積とタイヌビエ成熟期乾物重との関係

成果の利活用

水稲品種の抑草力を非破壊計測により評価できるので、雑草に強い水稲品種の育成に活用できる。

成果の発表年 平成12年度

(問合せ先: 水田利用部 雑草制御研究室 0187-66-2771)